

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第36週の発生動向

### 全数報告の感染症 (36 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 7 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。  
4 類感染症：レジオネラ症 1 例。5 類感染症：梅毒 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	60 歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70 歳代	男	肺結核	画像所見 (左上葉に不整形腫瘍)
			70 歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70 歳代	女	疑似症患者	—
			80 歳代	男	肺結核	咳
			延岡	90 歳代	女	肺結核
		日南	60 歳代	女	肺結核	発熱、左胸水
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	20 歳代	女	無症状病原体保有者	O26(VT1産生)
4類	レジオネラ症	宮崎市	80 歳代	男	肺炎型	発熱、咳嗽、呼吸困難、意識障害、肺炎、多臓器不全
5類	梅毒	延岡	90 歳代	男	無症状病原体保有者	—

### 定点把握の対象となる 5 類感染症

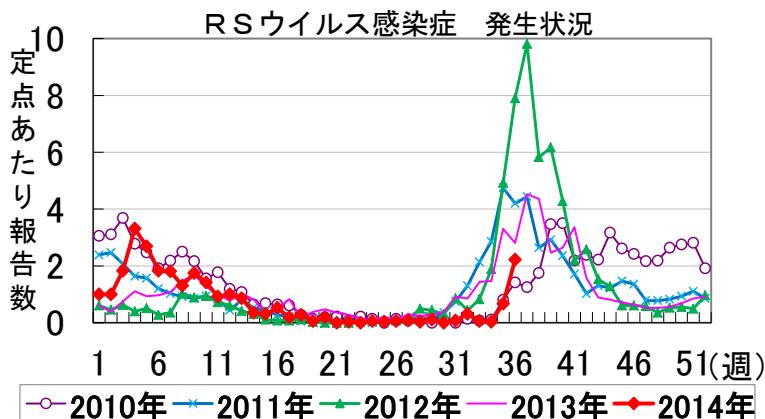
・定点医療機関からの報告総数は 645 人 (定点あたり 20.2) で、前週比 114% と増加した。前週に比べ増加した主な疾患は R S ウイルス感染症と手足口病で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

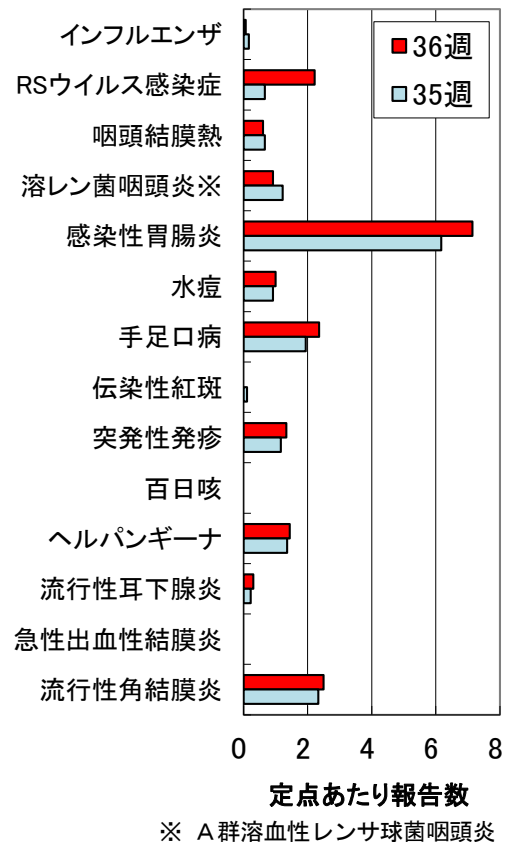
##### 【RS ウイルス感染症】

・報告数は 80 人 (2.2) で、前週比 333% と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\* (3.4) の約 0.7 倍であった。日向(10.8)保健所からの報告数が多く、年齢別では 1 歳が全体の約半数を占めた。

\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

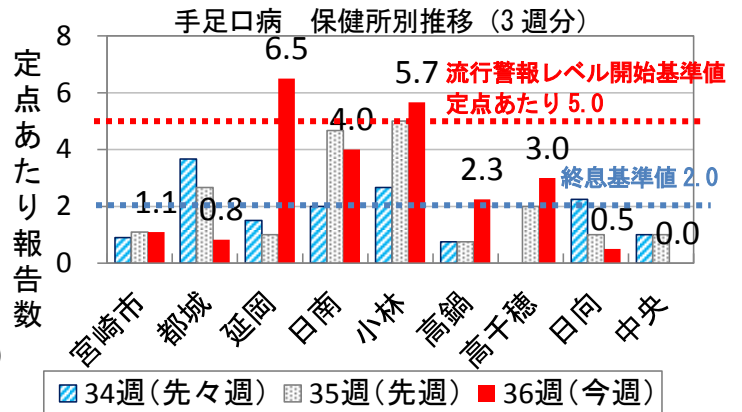
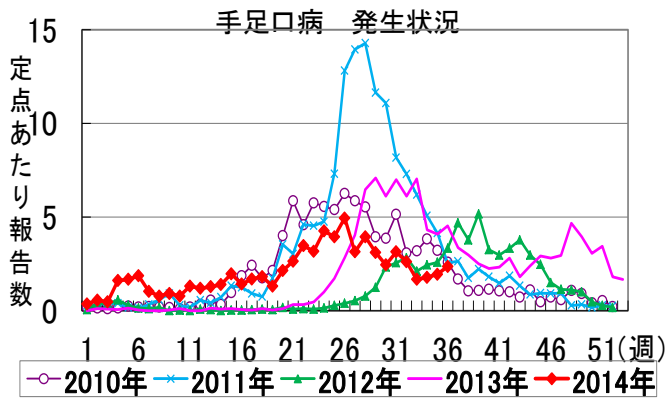


### 《前週との比較》



【手足口病】

・報告数は 85 人(2.4) で、前週比 121%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\* (3.1) の約 0.8 倍であった。延岡(6.5)及び小林(5.7)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から2歳が全体の約6割を占めた。



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	手足口病(6.5)
日南	なし
小林	手足口病(5.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

\*流行警報レベル開始基準値\*  
・手足口病(5.0)

★基幹定点からの報告★

○無菌性髄膜炎：都城保健所管内から1例、延岡保健所管内から1例報告された。患者はいずれも0歳で、病原体はRSウイルスが1例、不明が1例であった。

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 26 年 9 月 8 日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
毒素原性大腸菌 (OUT:HUT, STh)、(O25:H42, STh) 腸管凝集付着性大腸菌 (OUT:H21)	50歳代	男	2014.8.5	海外旅行者下痢症、ショック症状、低血圧、胃腸炎、 下痢、腎機能障害、乏尿、腎不全	便	2014.8.25
EHEC(O121:H19 VT2)	0~4	男	2014.8.22	下痢、血便	便	2014.9.3
Salmonella Livingstone(O7:d:l,w)	0~4	女	2014.8.25	—	便	2014.9.3
EHEC(O121:H19 VT2)	0~4	女	2014.8.27	—	便	2014.9.3
Legionella pneumophila SG1	80歳代	男	2014.9.2	レジオネラ肺炎、発熱(40℃)、熱性けいれん、意識 障害、腎不全	気管吸引液	2014.9.8

○50代男性から毒素原性大腸菌（ETEC）および腸管凝集付着性大腸菌（EAggEC）が分離された。ETECは旅行者下痢症としてよく知られており、しばしば複数の血清型や毒素型が混在することがある。今回の事例でも2種類の血清型に加え、EAggECも分離されており、海外渡航歴がある場合は複数のコロニーを調べることが重要となる。また、ETECやEAggECの生化学性状は一般の大腸菌と区別できないため、PCR法などが実施できない施設では見逃すおそれのある下痢原性大腸菌となる。なお、OUT、HUTのUTは untypable の略で、血清型別出来なかった場合に表記される。

○7月に続き80代男性から Legionella pneumophila SG1 が分離された。2014年3月末までに国内で収集された患者由来株はその97.5%が L. pneumophila で、そのうちSG1が82.9%を占めている。また、国立感染症研究所で実施している L. pneumophila の遺伝子型別ではデータベースの構築により、現在151種類まで型別されており、感染源不明の事例における感染源推定に役立っている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
ライノウイルス	0ヶ月	男	2014.08.19	細菌性肺炎、百日咳、38.4℃、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.09.05
ライノウイルス	2	女	2014.07.03	ウイルス性気管支肺炎、40℃、下気道炎、 急性中耳炎	咽頭ぬぐい液	2014.09.05

○細菌性肺炎疑いの乳児、ウイルス性気管支肺炎の小児からライノウイルスが検出された。ライノウイルス感染症は春と秋に多くみられ、当所では3月から7月にかけて12例検出されており、9月以降の動向にも注意が必要である。

📊 全国第35週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第35週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	421例			
3類感染症	細菌性赤痢	2例	腸管出血性大腸菌感染症	145例	
4類感染症	A型肝炎	3例	チクングニア熱	1例	つつが虫病 1例
	デング熱	30例	日本紅斑熱	3例	マラリア 2例
	レジオネラ症	29例	レプトスピラ症	2例	
5類感染症	アメーバ赤痢	18例	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎 7例
	クリプトスポリジウム症	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例
	後天性免疫不全症候群	21例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性髄膜炎菌感染症 2例
	侵襲性肺炎球菌感染症	5例	梅毒	29例	破傷風 2例
	風しん	1例	麻しん	4例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関あたりの患者報告総数は前週比100%と横ばいであった。今週増加した主な疾患はRSウイルス感染症と手足口病で、減少した主な疾患は水痘と伝染性紅斑であった。

RSウイルス感染症の報告数は1,234人(0.39)で、前週比170%と増加した。佐賀県(2.1)、福岡県(1.6)、鹿児島県・沖縄県(各1.2)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月~1歳が全体の約7割を占めた。

手足口病の報告数は3,244人(1.0)で、前週比120%と増加した。石川県(4.6)、佐賀県(3.7)、山口県・福岡県(各2.8)からの報告が多く、年齢別では1~2歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第36週(09月01日～09月07日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	10	4	2							2	
	定点あたり	0.17	0.07	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	24	80	10	1	14	3		9		43	
	定点あたり	0.67	2.22	1.00	0.17	3.50	1.00	0.00	2.25	0.00	10.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	24	22	11	2	3	2		3		1	
	定点あたり	0.67	0.61	1.10	0.33	0.75	0.67	0.00	0.75	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	44	33	5	3	8	3	1	5	3	5	
	定点あたり	1.22	0.92	0.50	0.50	2.00	1.00	0.33	1.25	3.00	1.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	222	257	53	44	34	50	36	9	3	27	1
	定点あたり	6.17	7.14	5.30	7.33	8.50	16.67	12.00	2.25	3.00	6.75	1.00
水痘	報告数	33	36	6	12	12		1	1		4	
	定点あたり	0.92	1.00	0.60	2.00	3.00	0.00	0.33	0.25	0.00	1.00	0.00
手足口病	報告数	70	85	11	5	26	12	17	9	3	2	
	定点あたり	1.94	2.36	1.10	0.83	6.50	4.00	5.67	2.25	3.00	0.50	0.00
伝染性紅斑	報告数	4										
	定点あたり	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	42	48	12	6	8	8	1	10		2	1
	定点あたり	1.17	1.33	1.20	1.00	2.00	2.67	0.33	2.50	0.00	0.50	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	49	52	18	3	8	8	4	3	1	5	2
	定点あたり	1.36	1.44	1.80	0.50	2.00	2.67	1.33	0.75	1.00	1.25	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	8	11	2	4	4					1	
	定点あたり	0.22	0.31	0.20	0.67	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	14	15	15								
	定点あたり	2.33	2.50	5.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	2	2		1	1						
	定点あたり	0.29	0.29	0.00	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	3										
	定点あたり	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2014年第1週～36週)

2類感染症	結核	151例(7)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	22例(1)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	15例	重症熱性血小板減少症候群	11例
	つつが虫病	6例	日本紅斑熱	4例	ボツリヌス症	1例
	レジオネラ症	9例(1)				
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	5例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	7例
	侵襲性肺炎球菌感染症	9例	梅毒	10例(1)	破傷風	1例
	風しん	2例	麻しん	4例		

( )内は今週届出分、再掲